

## 第 13 回名古屋大学ホームカミングデイ

第 13 回名古屋大学ホームカミングデイが、10月21日（土）、東山キャンパス及び大幸キャンパスにおいて開催されました。当日は、台風 21 号の影響による雨天にも関わらず、同窓生や在学生のご家族、近隣住民の方々を中心に約 4,000 名の来場者がお越しになりました。

ホームカミングデイには、「故郷に帰る」という意味が込められており、同窓生が母校に集うだけでなく、在学生のご家族や教職員 OB、地域の方々も「大家族」として、本学との絆を深めていただくための交流の場として、平成 17 年から、毎年 10 月の第 3 土曜日に開催しています。

今年は、情報学研究科を中心部局とし、メインテーマは『尖った情報技術、やわらかな人間社会』としました。



当日の運営は、主に本部の職員が、来場者への対応、駐車整理などの業務にあたり、各部局においても、職員と学生が行事を運営し、同窓生や在学生の保護者、地域住民の皆様をお迎えしました。

また、サッカー部に所属する学生やあかりんご隊の学生も、「親子サッカー教室」や「あかりんご隊科学実験」の運営をサポートしました。

当日は、来場者記念品として、ホームカミングデイリーフレット等に入った特製のお土産バッグと、「ミネラルウォーター・名大ラベル引換券」を配付しました。

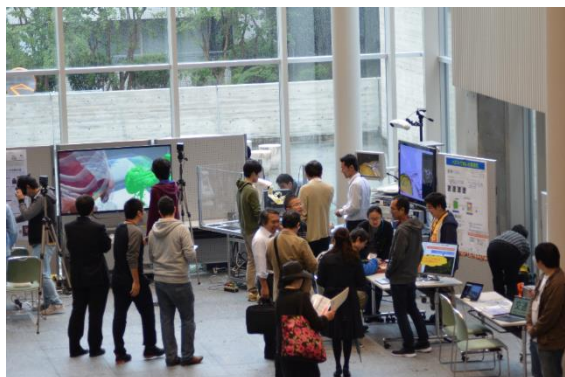
### ■ 学術講演「人工知能を大局的にとらえ、未来を考える」

午前中、豊田講堂シンポジオンホールにおいて、数学の理論で「脳の仕組みを解き明かそう」としていらっしやる理化学研究所・脳科学総合研究センター・特別顧問の甘利 俊一先生と、ヒューマンインターフェースに関わる研究を進めておられる、情報通信研究機構・監事の土井 美和子先生が、「人工知能を大局的にとらえ、未来を考える」と題して学術講演を行いました。約 155 名の来場者に、会場は、ほぼ満席となりました。司会は、平成 14 年に情報文化学部を卒業され、元 NHK



長野放送局アナウンサーで、現在はフリーアナウンサーの若月 弘一郎氏が務めました。第1部は講演、第2部は討論会形式とし、討論会では、本学理事である郷 通子先生と情報学研究科教授の戸田山 和久先生が加わり、人工知能の未来などについて討論されました。

本講演会では、昨年4月の「障害者差別解消法」を受け、昨年同様、聴覚障害をお持ちの方々向けに要約筆記を実施しました。第1部、第2部共に、筆記者が講師の話を要約し、文字をスクリーンに投影する形式をとりました。



また、関連企画として、豊田講堂ホワイエでは、「『情報』を体験しよう！」と題して、情報学部・情報学研究科が推進する研究の中から、「情報」の現在を楽しく体験できるテーマで多数の体験型展示を行い、多くの方に楽しんでいただきました。

#### ■名古屋大学の集い

午後から、豊田講堂ホールにおいて、卒業後10周年、20周年、30周年、40周年、50周年を迎えられた周年同窓生の皆様、抽選で当選された一般の皆様をお迎えして、「名古屋大学の集い」を開催しました。午前中に豊田講堂シンポジオンホールで行われた学術講演会で司会を務めた若月 弘一郎アナウンサーが、引き続き司会進行を務めました。はじめに、松尾総長、豊田章一郎全学同窓会会長から挨拶があり、次いで、和田壽弘全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の活動報告が行われました。



続く「名古屋大学国際交流貢献顕彰授与式」では、カトマンズ大学准教授 リジャン バクタ カヤスタ氏、フィリピン大学ロスバニョス校学長補佐で全学同窓会フィリピン支部前支部長のクリスティーノ ミランダ コリアード氏、ウズベキスタン中央銀行部長で全学同窓会ウズベキスタン支部長のバホディール メルガノフ氏の3名に、国際的な取り組みに対する功績を称え、表彰状と記念品が授与されました。



休憩を挟み、引き続き、名古屋フィルハーモニー交響楽団によるコンサートを行いました。指揮者にはラルフ・ワイケルト氏、ソリストにはフルーティストの上野星矢氏をお迎えしました。ラルフ・ワイケルト氏は、ボン歌劇場音楽監督、フランクフルト歌劇場音楽総監督、チューリヒ歌劇場音楽監督などを務め、主要オペラハウスとオーケ

ストラに客演を重ねるなど、世界を舞台に活躍されている指揮者です。また、上野星矢氏は、「第8回ジャン＝ピエール・ランパル国際フルートコンクール」で優勝し、ヨーロッパと日本を主な拠点として、世界を舞台に活躍されています。今回は、アンコールを含め、全4曲が披露されました。

また、午前中は、昨年初めて実施し、好評を博した名古屋フィルハーモニー交響楽団による公開リハーサルを実施しました。普段見ることのできない練習風景に、会場の来場者は興奮した面持ちでした。

### ■スタンプラリー

今回も、前回初めて実施して好評を得た、主要施設6カ所（赤崎記念研究館、減災館、ES総合館（2008ノーベル賞展示室）、野依記念物質科学研究館（ケミストリーギャラリー）、中央図書館、博物館・古川記念館）を巡るスタンプラリーを実施しました。主要施設6カ所のスタンプ押印を完了された方のうち、抽選で300名に「名大オリジナルマグカップ」を進呈するこのイベントには、多数の来場者が参加しました。また、参加者からは「スタンプラリーのお陰で大学の施設を見学することができた、改めてゆっくり訪問したい」などのお声をいただきました。



### ■施設公開「ジェンダー・リサーチ・ライブラリ（GRL）」



2017年11月に開館したジェンダー・リサーチ・ライブラリ（GRL）では、開館に先駆けて、ホームcoming当日に内覧会を実施し、110名を超える来場者がありました。1階に併設されている、CAFE BLANC(カフェブラン)もプレオープンしました。

### ■各種相談会



ナショナルイノベーションコンプレックス(NIC)3階多世代共用スペースでは、学生相談総合センター、男女共同参画室、未来社会創造機構まちづくりプロジェクト、ビジネス人材育成センター(B-jin)の主催で、卒業生向けキャリア支援企画「名大パパ+ママサロン」が開催されました。子育てしやすいコミュニティづくりを目指して、同

窓生同士や学生、教職員との出会いの場を設けるこの座談会企画では、「職場の上司や同僚、地域との接し方のヒント」をテーマに、参加者たちがテーブルを囲んで、気楽に語り合いました。

ES 総合館 034、035 講義室で行われた「シュウサポ OBOG 交流会～これからのキャリアについて考えよう～」では、就活サポーターOBOG を中心とした若手社会人卒業生と在学生が、座談会を通して「キャリアを通じて自ら成し遂げたいこと」等を発見・確認していく企画が行われました。

#### ■体験企画「あかりんご隊科学実験『光のひみつ』」、「名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室」



「あかりんご隊科学実験」及び「名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室」は、毎年人気の小学生向けの企画です。「あかりんご隊科学実験」は、今年も、募集人数を超える申込みがありました。

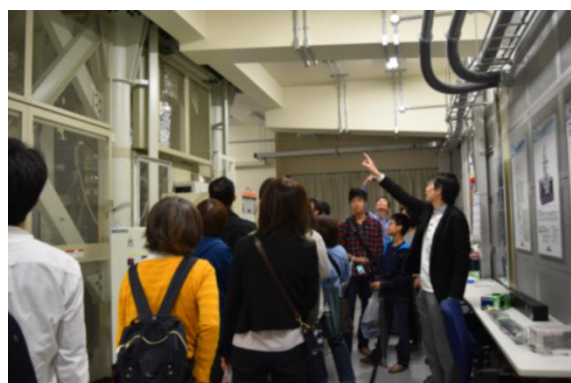
本学の理系女子学生で構成される「あかりんご隊」が、子どもたちに実験の楽しさを伝える企画を考え、今年のテーマを『光のひみつ』としました。

野依記念学术交流館 1 階カフェスペースにおいて、保護者の方に見守られながら、あかりんご隊が実験方法を説明し、子どもたち自身の手で、こまを作って、色の不思議を体験する実験にチャレンジしました。

陸上競技場で実施予定だった「親子ふれあいサッカー教室」は、雨天のため、新体育館で実施しました。名古屋グランパススクールコーチの指導の下、サッカーの基本プレイを学び、ミニゲーム等を行いました。子どもたちだけでなく、保護者の方の笑い声もたくさん響き、怪我もなく、親子のふれあいを楽しむ様子が見られ、大好評でした。



#### ■見学ツアー「超高压電子顕微鏡施設」



未来材料・システム研究所による超高压電子顕微鏡施設見学ツアーも、毎年人気の企画であり、今年は昨年を超える約 400 名の申込みがありました。参加者は、地面からの高さが 10m にもなる「反応科学超高压走査透過電子顕微鏡 JEM-1000K RS」を間近に見ることができ、熱心に説明を聞いていました。

## ■中央図書館、博物館企画、大学文書資料室企画



中央図書館では、オープンライブラリーのほか、「旗本高木家の明治維新」と題した秋季特別展を開催しました。「高木家文書」の中から明治維新期の資料を紹介しました。

毎年販売開始前から行列ができる盛況ぶりである本のリユース市は、昨年の豊田講堂南側ピロティから図書館へ場所を移して行われました。学術書等手に入りにくい図書が安価に入手できることもあり、今年も多くの方が本を購入されました。

博物館では、企画展「ムシの世界」を開催しました。関連行事として、企画展に約100点を出品している3D切り紙作家：石川進一郎氏による、虫の3D切り紙実演が行われ、精巧な制作過程を披露しました。



豊田講堂ホワイエでは、大学文書資料室の展示企画として、「名大史資料展-こんな史料ありませんか-」を行いました。参加者は、大学の歴史に関わる様々な時代や種類の資料に興味深そうに見学していました。

## ■販売コーナー



豊田講堂南側ピロティの販売コーナーでは、農産物の販売、大学生協による名大グッズ等の販売が行われました。

農産物の販売では、フィールド科学教育センターである東郷フィールド内の大地で育てられた、さつまいもや柿などの新鮮な野菜や果物、お米が販売され、人気を集めていました。

大学生協による名大グッズ等の販売では、名大饅頭や名大オリジナルマグカップなど豊富な商品が並び、名古屋大学ベジタブルカレーの試食や名古屋大学フェアトレードコーヒーの試飲も行われ、多くの人で賑わいを見せていました。

## ■その他各学部・研究科主催行事等

各学部・研究科においては、市民公開講座、同窓会関係行事、在学生の保護者向け行事等が企画されました。

多彩な分野の講演タイトルが出揃った市民公開講座等は、現役の教員だけでなく、名

誉教授や同窓生等を講師にお迎えし、同窓生も一般の方も楽しめる講演内容の工夫が凝らされていました。

また、保護者向け行事では、各学部・研究科ごとに、教育・研究内容の紹介や進路・就職状況について説明があり、保護者からの質疑応答や個別相談も行われました。保護者向け行事に参加いただいた方には、日頃、在学生在が食べている大学生協の食事も試食して

いただきました。参加者からは、「普段子供からの情報が少ない中、同じ悩みを持つ親御さんとの情報共有ができ、また教員と直接話をできる貴重な機会であった」などのお声をいただきました。

雨天ではありましたが、参加された多数の方に、楽しい一日を過ごしていただき、ホームカミングデイを通じて、本学との繋がりをより一層深めていただくことができました。来年も10月の第3土曜日(平成30年10月20日(土))に開催致しますので、是非、お越しください。

